

アフリカに於ける三菱商事の社会貢献活動

当社では、環境・CSR への取り組みを経営の最重要課題の一つとして認識し、事業活動のあらゆる面において持続可能な社会の実現を目指した取り組みを積極的に進めています。世界各地の社員が自発的に参加して汗を流すとともに、継続して活動に取り組むことを重視し、「地球環境」、「福祉」、「教育」、「文化・芸術」、「国際交流」を軸とし、さまざまな取り組みを進めています。

アフリカにおいては 1992 年に設立された三菱商事欧州アフリカ基金（MCFEA）を通じ、環境保全活動や貧困問題解決に向けた取り組みを支援しています。また、当社がビジネスを展開する国や地域を中心に、中長期的にどのようなサポートができるかを考え、現地の人々のニーズに合った国際貢献施策をはじめ、各拠点で様々な社会貢献活動を実施しています。



上述資料の通り、当社はセイシェルでのサンゴ礁保全プロジェクト、モロッコでの救急車の寄贈、アルジェリア、セネガルでの職業訓練プログラム支援、コートジボワールでの母子病院改修・機材供与、国立大学デジタルメディアセンター支援、ケニアでの熱帯林再生実験プロジェクト、南アフリカ、コートジボワール、チュニジア、ケニア、エジプト等で

の奨学金制度等、アフリカ大陸全般に亘り、医療、教育、環境等、各国のニーズにあわせた案件選定を行っており、今後とも活動を継続してゆく所存です。

具体的な事例として、当社の在モザンビーク事業投資先のモザール社が、地域との共生を前提に行っている、CSR 活動をご紹介します。

英豪 BHP ビリトン社、南アフリカ開発公社、および当社の共同出資により 1998 年に設立されたモザール社アルミ精錬所プロジェクトは、もともと何もないサバンナ地域に工場を建設したもので、周辺産業を含め 1 万人規模の雇用効果を及ぼし、長期内戦で疲弊した同国の経済復興に大きく貢献しました。その事業利益から毎年数百万ドルを拠出してモザール地域発展基金 (Mozal Community Development Trust, MCDT) を設立の上、周辺地域における教育支援、衛生・環境整備、病院等社会インフラ整備、スポーツ・文化活動支援を行っています。具体的な活動内容は学校の建設、マラリア予防のための施策実施、HIV/AIDS 教育の徹底等、周辺地域に根差した活動を心掛けています。これらの活動は、MCDT 理事会で運営されており、当社もこの理事会のメンバーとなり、地域の持続的発展に寄与し続けています。

豊富な資源、拡大する消費市場が注目される中、現地のネットワークを維持してきた当社も、アフリカのビジネスをますます活発化させていきます。一方、この地域に於ける貧困対策、基礎インフラや人材育成等のニーズは依然として高く、当社としても CSR 活動を重要な企業活動の一つとして捉え、今後も継続していきたいと考えています。

以上